

# 日山協自然保護ニューズレター (平成27年春号)

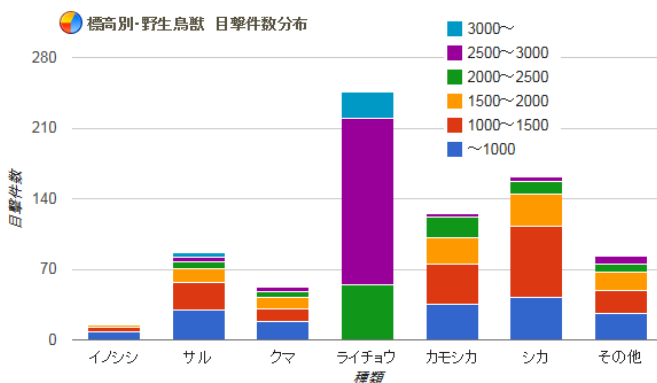
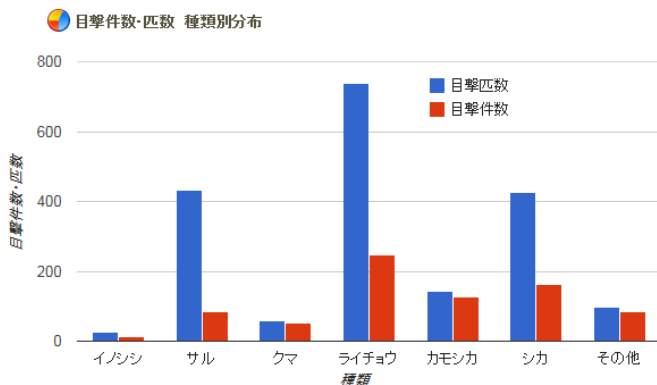
発行日 平成27年6月1日 発行元 公益社団法人日本山岳協会自然保護委員会

## 山の野生鳥獣目撃レポート

山の野生鳥獣目撃レポートは山岳団体自然環境連絡会（日本山岳協会、全国勤労者山岳連盟、JAC、HAT-J、都岳連、山のECHO、日本山岳ガイド協会）が運営するプロジェクトで、日本山岳協会がプロジェクト推進を担当しています。平成21年4月から継続してきているこのプロジェクトは、今年から環境省が運営する「いきものログ」の活動団体として登録されています。

### 山の野生鳥獣目撃レポートの1年の活動

- 1) ホームページへのアクセス  
(2014/5/1～2015/5/20の調査)  
アクセス数：2,096件 閲覧ページ数：5,725件  
アクセスの地域割合：東京31%、大阪10%、  
神奈川7%、愛知5.5%、埼玉5.4%
- 2) レポート件数(2014/3/17現在)  
累計：779件  
平成26年度年間レポート数：98件
- 3) 集計結果  
詳しくは：ホームページにて公開中です。



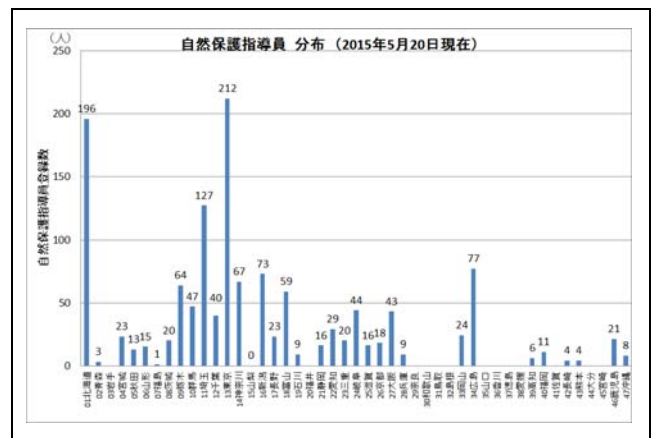
(山の野生鳥獣目撃レポートホームページ)

[www.jma-sangaku.or.jp/conservation/yaseichoju/](http://www.jma-sangaku.or.jp/conservation/yaseichoju/)

## 平成27年度自然保護指導員登録状況

平成27年度自然保護指導員は5月20日現在で、新規57名(前年比2.5倍)、更新135名(前年比1.8倍)を受付した。いずれも前年を上回る状況です。しかしながら、登録数は1342名で、年々右下がりの状況にあり、この状況の改善に向け、より一層のご協力をお願いします。

登録期限を過ぎて更新の手続きをされていない方がいます。平成25年度96人、平成26年度15人、平成27年度105名となっております。更新を失念された方に於かれては、お手元の登録証をご確認いただき、是非とも更新の手続きをお願いします。



## 山に向かう心のアンケート

この調査は、山の神に代表される日本の山岳における精神的な歴史や文化或いは民俗についての意識調査を行うものです。この意識調査の目的は、新しい時代の山での自然保護と適正利用のあり方を創り出し、山の自然と文化の社会的な価値の認識を深め、入山行動につなげる情報入手することにあります。

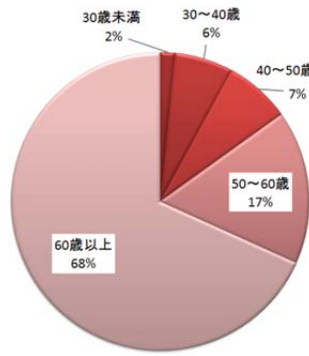
皆さまからのアンケートを取りまとめ、山岳問題に関する諸問題が山積する中で、現代人が忘れかけている日本人心を呼び覚まし、山での人々の行動と山や自然との適正な関わりを考えたいと思います。

この調査は3月15日～6月30日までの間、実施しています。ご協力のほどお願いいたします。

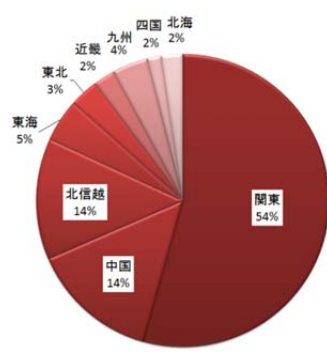
今まで128件のアンケートを頂いており、ご協力を頂

いた方々の内訳は次の通りです。

年齢別分布



地域別分布



アンケートの詳細については次のページをご覧ください。

<http://mountprotection.sblo.jp/archives/201503-1.html>

### 山の自然と修験道

本山修験宗総本山聖護院門跡 58 代門主 宮城康年氏の法話を伺う機会があり、その中から、山の自然保護について一部抜粋してここに記します。(以下、文責松隈)

修験道の 大峰山では木を大事にし、「靡(なび)き八丁、斧入れず」という言葉があります。役行者の故事に熊雄本宮から吉野へ抜けるについて、



その峰の中に 75 箇所(箇所)の霊場を拵(たくわ)えたという伝説がございます。これを「75 靡き」といいます。霊場が尾根伝いにありますことから尾根道のことを「靡き道」とも申します。八丁と言いますのは尾根から約 800 メートル以内にある木を切つてはいけないということです。私の父親からも山に入ったら石一つ持ち帰らぬように、木一本切らぬようにと諫められ、自分が歩いた後はゴミなど落ちていないように綺麗にせよと戒められました。「靡き八丁斧入れず」というのは山林保護の表れです。

私が初めて大峰山に入りましたのは昭和 33 年です。当時、酸性雨の問題もありましたが、どんどん山が荒れていくのが目に見えてわかるようになりました。それは麓の方で造林するのに、大がかりに伐採したようなところでは下流が崩れますと上流からも落ちて行きます。また、自然と山林が弱くなっている部分もあります。いろいろな面があるのかと思いますが、荒れていくのが目に見えて分かるのです。そのなか、雑木林が山の荒れを防いでいるようで、大峰の山中に入るたびに分かってきました。「靡き八丁」というのは山の上の方ですから人工林ではなく、原生林です。

40 代の頃、その原生林へ迷い込んだことがありまして、仏生ヶ岳というところでしたが、山が大きいものですから尾根道を通らず、横道を巻いていきました。巻き道は枝道が多いものだから、行ったりきたりの連続でした。倒木や落葉などの堆積物が積もり行く手を阻み、靡き八丁の尾根道に比べるととても難渋するものがありました。なかには足を踏み入ると膝近くまで嵌るはまり込みに、足抜くと下から水が湧き上がり、大きなミミズが這い出して来る場所もあり、山の命がフンダンにあると見えました。なるほど、「靡き八丁斧入れず」という役行者の掟は、そういう世界を大事にすることで、神仏の世界を大事にし、下界に居ります私たちの生き方をも豊かにしてくれるというものではなかったか。全く人が入っていない世界というのは木と木が絡み合いながらお互いの木を支えています。

植林された杉林では、木と木が支え合っているのではなく、台風の被害などでよく見かけますように、一旦どこかが抜けたら共倒れ式に抜けて行きます。昭和 30 年代の終わりに水害の直後の広島県三次市に行きましたが、そのおり「大変でしたね」と乗り合わせたタクシーの運転手に声をかけますと「それはね～、お客さん、神さんを粗末に扱ったことの罰ですよ。」との言葉が返ってきました。以前の三次の周りにはもっと自然林があったのですが、それで木を植えたら儲かるということで、林をどんどんと切り開いてスギの木だけを植えたそうです。スギは根の浅い木なものですから、雨が降って一辺に流されて、川を堰止めて、こんな状況となってしまった。それは元々あった神さんの世界を潰したからだということです。

私はそういう言葉を聞きながらなるほど、「靡き八丁の道」へ入って、神さんの世界というものはこういうものであると、私たち人間がコントロールしながら、利潤も追求せねばならないのが人間社会であるけれど、その弊害について考えが及んでないとも思われます。また、その効率化を目指した木が一人前に育っているけれども、その山を育てる人が減ってしまった。局面的かもしれないが、知り合いに山林業者が「幾ら木を育てても山出しが大変で、外材を買って来た方が安い。」と言うような状況では、山を育てることができません。そういうことを聞くと、人間の知恵は浅はかなものだと思います。自然のそのままにあった中で暮らしていた方がどんなにか素晴らしかったのではないかということを感じるのが「靡き八丁斧入れず」の世界であります。いろいろな木が絡み合っているからこそ山崩れも起こさず、仏生ヶ岳という大きな山がどこも山崩れが起きなかったのはその林相にあると感じました。

人間社会に於きましても私たちはいろいろな人がそれぞれ違った世界に生きております。得意な分野や、生活態度が人それぞれ違います。思い出しますには、「帝釈天の宝石網」という言葉があります。帝釈天は須弥山世界の上の方にある世界ですが、そこに宝石のネットがある。網目の交差するところの一つずつ宝石が付いている。それぞれの宝石は隣の光を受けて光っている。宝石には固有の光があり、ルビーとかサファイヤとかそれぞれ色が違います。単独でも光っていますが並べますと、ルビーはサファイヤの光を受けて緑がかってくる。さらにそれらのそばにダイヤモンドがあると、ルビーとサファイヤの両方の光を受けて光っている。そうしたことは人間社会だけでなく、万物の世界ではお互いに影響を与えたり受けたりしながら、生きている世界です。「一切即一、一即一切」というふうに、

大きな世界は夫々と影響しあいながら、一つの色に輝いている。一つ一つの個性は皆持っているわけで、その自分というものの世界は周りにある皆の世界の光を受けているのです。周りのみんな含まれているところが、一切の私は即一切の世界の中にあるのです。「一即一切、一切即一」というのはそこなのです。

自然というものの様相は、いままでは自然循環のバランスの中にあつたものが、あるものが増えてしましますとバランスを崩してしまう世界となってしまいます。私たちの人間世界においてもバランスを崩してはいないかということをおもいます。それは人間社会が昔と違って食べ物も着るものも住まいをするところも、それら便利さを追い過ぎてきた結果、自然の摂理をいい加減にしてきたのではないかということをおもいます。森や林をみてきて、そして山を歩いてみて、それをおもいます。

私たちの生活がご先祖さんの生活と違う形になってきたことは確かです。ましてや、利便性を考えて、どんどん便利な世の中になって行くとなると、自然が絡み合って私達をその中に育てているありがたみというものを忘れてしまっているのではないのでしょうか。そういう思いを持ちますと、なにげなしにスイッチ一つを切らずにいる日常の私達をもう一度振り返ってみる必要があるのではないかと思います。

ヒマラヤ登山にも出かけられる門主は現地語の「ビスターライ（ゆっくり）」との言葉を使い、「ゆっくり歩くことで、足下も、景色も見ることができる。自然に目を向けながら、私たちは歩み続けていく必要があるのではないのでしょうか。」と、全てに通じるアドバイスで法話を締めくくった。

この法話は、去る5月15日に「山のECHO」が主催して行われた「京都・奈良吉野で修験道の心を学ぶ会 京都・奈良吉野で修験道の心を学ぶ会」にて行われたもので、京都・聖護院門跡にて話を伺った。この会は徳丸久衛氏（環境省北海道地方環境事務所長）のご発案で始まったということである。冒頭の開催あいさつの中で、氏は次のように語った「即聖院の住職と個人的なおつきあいを通して、修験道について教えを受けました。登山をする人たちも、体を鍛えるといったことにとどまらず、同じように靈感であれインスピレーションであれ何か感じるものを得て、人生を考え直すこともあれば、生き方を変えていくこともあろうかと思ひます。そして自然を大事にする点で共通的な認識をもちました。そこで登山を愛好する方々との繋がりができないかと考えました。全てが繋がって行けば、それぞれのやり方や目的に違いがあろうかとは思ひますが、同じようなことを目指し、同じようなことを感じている人たちであれば、山に何かの問題があれば、一緒になって考えることができるのではないかと思います。みんなで一緒にやって行きませんかということでお今回の勉強会を持ちました。」と。

## 環境省トレランガイドライン

平成27年3月31日付けで「国立公園内におけるトレイルランニング大会等の取扱いについて」が国立公園課長通知としてインターネット上に公開された。

今回の通知は次の5項目にわたって行われ、①基本的な考え方② 国立公園管理運営計画への記載について③大会等の取扱い方針について④大会等開催に伴うモ

ニタリング等の実施について⑤その他となっている。3番目の「大会等の取扱い方針について」であるが、「コース設定基本事項」や「大会等開催にあたっての配慮事項」が含まれ、前者では第1種特別地域を特別保護地区と同等に扱うとした。「大会等開催にあたっての配慮事項」は具体的な事項がチェックリストで盛り込まれた。

「国立公園内におけるトレイルランニング大会等の取扱いについて」が国立公園課長通知の全文はつぎから閲覧できます。

[http://www.env.go.jp/nature/trail\\_run/index.html](http://www.env.go.jp/nature/trail_run/index.html)

この通知に、一線がオーソライズされた点については評価ができるが、「玉虫色」であるとの評価も聞かれる。

## 第39回自然保護委員総会開催予報

公益社団法人日本山岳協会 第39回自然保護委員総会の開催予報を次の通りお知らせします。

会期

平成27年9月12～13日

会場及び宿泊先

磐梯青少年交流の家

〒969-3103 福島県耶麻郡猪苗代町五輪原 7136?1

TEL 0242-62-2530

<http://bandai.niye.go.jp/>

主管

福島県山岳連盟

日程

9/12(土) 12:00 受付(磐梯青少年交流の家)

12:30 委員長会議

13:30 開会式・総会(基調講演・活動発表・討議)

18:30 懇親会

9/13(日) 巡検登山(次の2コース)

\*コースは詳細検討中です。変更することがあります

◆1班 八方台口往復登山～噴火記念館～

五色沼経由磐梯青年の家

◆2班 野口英世記念館視察～五色沼遊歩道散策～

磐梯噴火記念館視察

14:00 解散：磐梯青少年交流の家

費用

15,000円(+消費税)

参加資格

1) 各、都道府県山岳連盟(協会)より推薦された者。

2) (公社)日本山岳協会の役員・参与・及び賛助会員。

3) 地域の自然保護を図るため、特に認められた者。





## トイレの神様をしっていましたか？

関東三代不動の天台宗 目黒不動尊 龍泉寺で行われた「刷毛・筆・供養」に参加したおり、その書院で「トイレの神様」を見つけました。」と西山委員の報告。この神様は烏枢沙摩明王（うすさまみょうおう、Ucchusma）という名前だそうです。特に有名な功德としては便所の清めがある。便所は古くから「怨霊や悪魔の出入口」と考える思想があったことから、現実的に不潔な場所であり怨霊の侵入箇所でもあった便所を、明王の炎の功德によって清浄な場所に変えるという。



## 小原美子常任委員のご逝去を偲ぶ

1月に急逝された小原美子（日山協自然保護常任委員、東京都岳連所属）を偲ぶ会が、東京・芝浦で5月21日に開催され、多くの仲間たちが生前のエピソードなどを語りあい、ご逝去を偲んだ。

小原美子さんは2007年に自然保護常任委員に就任され、委員会の活動に会計担当として参画され、女性としてのソフトな反面鋭い発言でお委員会をリードしてこられた。趣味の山岳写真には定評があった。

## 各岳連の自然保護活動から

（東京都山岳連盟）  
2015年5月10日（日）前夜の雨がうそのような五月晴れのハイキング日和に観察会は行われました。初夏の日差しに新緑が輝く五日市丘陵で、参加者は30人を超えました。



（神奈川県山岳連盟）  
5月17日、丹沢・ニノ塔山腹（標高1050m付近）にて第六回環境登山が行なわれ、山腹の荒地に200本の県産ケヤマハンノキを植樹した。この日集まったのは大曾根名誉会長、岡本会長、相良副会長、菊池理事長など連盟幹部を加え連盟会員41名、一般7名が参加して汗を流した。



## 会議等

- ◆自然保護常任委員  
平成27年5月14日  
平成27年4月9日  
平成27年3月12日
- ◆山岳団体自然環境連絡会  
平成27年5月29日  
平成27年4月24日  
平成27年3月30日

## 予定

- ◆自然保護常任研修会  
6月13～14日 戸隠
- ◆第39回自然保護委員総会  
9月12～13日 福島県
- ◆関東地区山岳連盟自然保護交流会  
10月31日～11月1日 茨城

\*\*\*\*\*



編集後記 ニューズレターを発刊して1周年、季報であるものの、掲載記事を集めることに苦労がある。読者各位によいネタがあれば是非ご提供を期待するところ。（松）

発行元  
公益社団法人山岳協会 自然保護委員会  
〒150-8050 東京都渋谷区神南1-1-1 岸記念体育会館  
☎ 03-3481-2396 📠 03-34891-2395  
HP [www.ima-sangaku.or.jp](http://www.ima-sangaku.or.jp)  
Blog <http://mountprotection.sblo.jp/>

発行日 平成27年6月1日  
発行番号 2015年春号 (2015-06 pub1)